

17 回ファミリーコンサート委員からの通信

実行委員長 中田 洋

◆近況

昨年 3 月 7 日に開催予定だった第 16 回ファミコンが今回の演奏会に置き換わり、ようやく実現できるようになりました（裏方の方ではコロナの状況を鑑み、実施の判断を 5/12 と 6/19 に二段階設定していたので、この記事が読まれているということは、既に Go が出された状況にしているということです(笑)）。途中前任の芥川さんが休みに入られましたが、ファミコン委員は引き続き、安藤、石川、ト部、松村、中田で進めています。何分普通の定期演奏会とは仕込みの規模も異なり、試行錯誤の繰り返しと役割分担をしながら進めており、現在は司会の永井先生と演出の流れについて最終段階の調整を行っているところです。

◆演目の再調整

検討資料をひっくり返せば、企画のスタートは 19 年の 1 月からなので、足掛け 3 年のロングランの活動になりました。演奏会のテーマや演目も基本は順延で行こうと再スタートしましたが、コロナの状況下における制限もあり、全く同じプログラムにはならないだろうと当初から考えていました。

私自身は、第 15 回（2018 年、こうもり序曲、コッペリア、ファウスト）の時が初参加だったので、それ以前のファミコンはよく把握していないのですが、あのインスタントコンダクターコーナーについてはお客様の反応を見ても鎌響の歴史ある呼び物コーナーということを確認しました。しかし残念ながら、お客様をステージに上げてのやりとりはこの状況では無理であり、何かその穴埋めをする魅力的なことは出来ないかと、ファミコン委



員で再度アイデアを持ち合い、前回の企画で不十分だった、あるいは妥協していたことを見直し、演奏会の新しい骨組みを模索してきました。

昨年の演目は、時間との調整で「シンデレラ」を無理やりカットしたり、「くるみ割り」も組曲版に少し見せ場を追加した感じであり、それなりに楽しめる志向だったかもしれませんが、やはり無理やり感が否めず、「バレエは一曲じゃ勿体ないね」という意見もちろほら聞かれていました。

そこで今回改めたこととして、「シンデレラ」は横島先生の希望もあり、曲中のカットは無くし、より完全な演奏形態にすること。また「くるみ割り」については、本来のバレエの楽しみ方に近づけるよう、共演部分の充実を図ることにしました。

◆舞台進行について

全体的な流れは、第一部は音楽会形式、第二部はバレエとの共演ステージになりますが、「シンデレラ」では、永井先生によるお客様をファンタジーの世界への誘いのようなストーリーテリングで進めます。（演奏の入らない場所では少し照明の暗転などを加える予定です。）そして、「くるみ割り」については、前半は絵本を読むように物語の進行を曲

間に挟み、後半のお菓子の国の来賓の踊りから最後まではきらびやかなバレエとの共演ということで、演奏会の雰囲気に変化をつけて、最後までお客様を飽きさせないようなステージにします。

◆「くるみ割り」でのバレエとの共演

企画が固まり始めたところで、山本名誉団長を通じ、スズキ・クラシック・バレエ・アカデミーの鈴木和子先生に共演の打診をしたところ、快く引き受けて頂くことになりました。また通常のバレエの舞台とは異なった、オーケストラとの対等な演出についても賛同頂きました。

通常は、バレエの伴奏はオケピットに団員が入り込み、指揮者が舞台を見ながら演出の進行をする体ですが、今回は、せり上げたオケピット(奥行き約 6m)のエリアのなかで、振り付けを行うことになっているので、安全も踏まえた綿密な組み立てが必要です。

また、当初の練習で録音を行いました。振り付けや動きのタイミングを掴むための、尺(カットを加えた曲の長さ)やテンポ感などもバレエ側の希望をお聞きし、進めています。

今回の演出では、昨年お願いしていました新井望さんに高橋真之さん(吉田邑那さんお怪我のため代役)、それからスズキ・バレエ・アカデミーとスズキ・バレエ・アーツ選抜の生徒さん、総勢 19 名をお迎えし、たぶんアマチュアでも例に見ない新たな演出ができるのではと思います。

私自身、恥ずかしながら Pas de deux(パ・ド・ドゥ)は音楽や YouTube を観るだけではあまり心躍らなかったのですが、バレエの打ち合わせでリハーサルを見学させていただいた時の衝撃は計り知れません。やはり踊るための筋肉や空気の動き、目で追いかける躍動感があるからこの下品？ともいえる盛大な盛り上げ(チャイコならではの(笑))がある！とすごく納得しました。

華麗なステージと一緒に演じられることを今から楽しみにしています。

◆コロナ禍での開催準備

オリンピックパラリンピックがどうなるかとは別に、この演奏会も企画段階では最悪のことも考えつつも、「進めることは進める」。感染防止などの十分配慮もしたうえで、「逃げないところは逃げない」という形で準備をしています。普通のコンサートとは異なり、バレエのリノリウム敷設や照明音響など外部の力も必要ですし、それなりに調整労力もかかるのですが、何はともあれ、お客様と団員自身が楽しめて、記憶に残るコンサートになれば嬉しいです。今回、やりたいこと、やるべきことをやりましょうと、後押しをしてくださった役員の方々には本当に感謝です。

最後に。ファミコンを通したバレエもオペラも、何か今後の鎌響のポテンシャルをもっと生かせる将来に繋がればよいと思っています。ぜひご指導ご協力をお願いいたします。(オケピット内に

ギューギューになって入れるのはいつになるか分かりませんが、本当のバレエ舞台も一緒に体験したいですね。またそれも意識しながら関係づくりができればと思っています。)

鎌響 Web のお客様向けの「コンサートの見どころ、聴きどころ」でもメッセージを載せています。合わせてお読みください。



父が残してくれた鎌響とのご縁

永井 邦子

鎌倉交響楽団の皆さま、こんにちは。年に1、2度司会者として伺わせて頂いております永井邦子です。

初めてコンサートの司会をさせて頂いたのは30年以上も前になります(メンバーの中には20代の方も沢山いらっしゃるでしょう)。な・な・なんと大変な月日が流れました。びっくりです。

そもそものご縁は、ヴァイオリンが趣味でありました父が、お仲間に入れていただき、何かの話から、私の仕事がコンサートを中心とした司会業であることを耳にされたメンバーの方からのお声がけでした。

私の父は平凡なサラリーマンでした。特別な趣味もなく(いや、やはりヴァイオリン演奏は趣味?だったのかしら…)、お酒もタバコもやらないし、ただ本当にクラシック音楽が大好きで、団員にして頂いてからは、週末の練習日を大変楽しみにしておりました。いそいそと出掛けて行く姿を今でもよく覚えております。日頃の練習でさえそんな調子でしたから、いよいよ本番、演奏会の当日は、新品の下着とソックス、そして一番ピカピカ光る黒いシューズをはいて…。さぞかし嬉しく、大切な日だったのでしょう。

そんな父は、音大を出たにも拘らず演奏家にもならず、いえ、なれずに司会? 思いは複雑だった様ですが、一緒に演奏会はとても居心地が良かったようで、行き帰りの車の中ではいつも上機嫌でした。そんな父も4年前に亡くなりました。日頃から特別仲の良い父娘ではなかったと思いますが、鎌響さんへの想いは私にしっかりと伝えておりました。

今日までのご縁は、父が私に残してくれた大切なものです。皆様の演奏のお邪魔をしない様に、そしてお客様が演奏と司会を一つの鎌響カラーとして受け止めて頂けます様に、感謝の気持ちを忘れずにおしゃべりをして参りたいと思っています。

私たちの業界で、ステージ等に出るの司会を「顔出しの仕事」と言います。この夏もファミリーコンサートの司会に伺います。「顔出し」です。もう、そろそろ…そんな声も聞こえて来そうですが、大丈夫。今回は、プログラム後半は「顔出しなし」のカゲナレで進行致します(笑)。

久し振りのファミリーコンサートです。全力でトライ!!

宜しくお願い致します。

●●●●● <特集>コロナ禍での音楽活動

横島先生に ZOOM でインタビュー

昨年のファミリーコンサートが中止になったこと

昨年のファミリーコンサートは練習がかなり進み、あと数回で本番というところで中止になってしまいました。私はやるのではと思っていたので少し驚きましたが、当時は何が何だかわからなくて、世の中に振り回されていたように思います。

芸術は不要不急か

芸術は不要不急だと言う人、そうではないと言う人にはっきり分されました。音楽家の中にも無気力になってしまった人もいます。どんな状況でもチャンスにする人、崩れてしまう人、その人の問題でしょう。芸術が必要かどうか、いろいろな考え

方が出ましたが、その評価は後になってわかるものでしょう。オリンピックのことも同じだと思います。

活動できなかった期間について

11月ごろまではほとんどの演奏会、練習が中止になりました。もちろんウィーンへの演奏旅行もなくなりました。そんな中でいくつかのことを始めたりしました。たとえば6月ごろから弦楽器の人を集めて演奏して地域の方に聴いて頂くような機会を作ったりしました。オリンピック選手もそうですが、学生などにとってこの1年、2年が特に大



事な時期だという人もいますが、それをどうとらえるか、すべて試されているということだと思います。

今の状況

私たちの仕事は1年先、2年先の話を決めていくわけですが、まだ動いていません。今でもまだ4割ぐらいしか戻っていない状況です。

今回の演奏会について

時間があつた分、気持ちが高まっていると感じます。1回止まったので、エネルギーが強くなっていて、やっとできる嬉しさや、しんどいことをどう乗り越えるかなど、1人1人の気持ちがちがうように感じます。

特に最初の練習は熱かったですね。

東京だったら8時までしか練習できないですが、鎌響では9時までやれている。戸塚で特別に9時までやらせて頂いて裏の通用口から出たことがあったときなど、鎌響の役員さんはさすがと思いました。

私と音楽とコロナ禍と・・・

Cl 片山 眞知子

忘れもしない昨年2月21日。3月7日に予定されていたファミリーコンサートが中止になったという情報がネット上をかけめぐりました。それ以降、準備を進めていた本番が中止、あるいは出かけようと思っていたコンサートが中止というなんともガッカリな知らせが続々と届くように…。悪夢のような数か月間の始まりでした。

4月、ついに緊急事態宣言が発出されました。生徒さんのレッスンはというと、とにかく見よう見まねでオンラインレッスンに挑戦しました。息子にも色々教えてもらって試したいいくつかのアプリの中から、音質の良さがピカイチだった Facetime を使用しました。

息子は4月から都内の私立高校で非常勤の口が決まっていたのですが、着任早々休校続き。親子二人でずっと自宅待機の毎日でした。

この間、はまったのは横浜市民広間演奏会でアンサンブルを組んでいたクラリネット・トリオの

ための編曲です。他にすることがないので、パソコンに向かったら時間を忘れて没頭。ふと気が付くと窓の外は真っ暗！なんてこともありました。土日に帰ってきた夫に「その編曲が日の目を見る日が来ればいいね。」と自虐的に笑いあったりもしましたが、6月23日の横浜市民広間演奏会でその時編曲したものをとりあげる予定です。

夏に久々に鎌響の練習でみんなに会えて合奏できたときには本当にうれしかった。人と直に会い、言葉を交わすこと。またアンサンブルをする楽しさが心に染み入り、音楽が心を豊かにするということを身をもって実感しました。

年が明けて2度目の緊急事態宣言でまた鎌響の練習が自粛となりました。再び無味乾燥な、来る日も来る日



もひとりでさう生活。でも 4/29 の本番で披露する曲をはじめてピアニスト(息子です)と合わせた時も、アンサンブルで誰かとともに音楽を作り上げるということがこんなに楽しいことだったのかとちょっと感動してしまいました。

この先もきっと本番が中止になったり、楽しみにしていたコンサートが中止になることがあるかもしれません。でも、その時の自分にできることを淡々とこなして毎日を過ごしていこう・・・ジタバタしても、きっと音楽がこの世からなくなることはないだろうから。

もうすぐ戻ります

Cl 鈴木 美緒

私は新型コロナ感染者と直に接する仕事をしているので自分自身がウィルスの媒介者になるかも、という恐怖から、鎌響をお休みしています。かれこれ 8 か月が過ぎました。

仕事は在宅になることはなく、これまで通り。なので、鎌響がないこと、友人や楽器の師匠と直に会えないこと、これ以外は、これまでと変わらない生活をしています。

逆にちょっと変わったことと言えば、テレビ見たり(朝ドラ「おかえりモネ」の坂口健太郎に惚れました)、お散歩したり(海、寺社、花を求めて)、買い物したり(通販から卒業。店員さんが怖くなくなってきた!)、美術館行ったりするようになりました。たったこれだけのことが、案外楽しい。今までの私は何してたんだろう?とも思ったり。

これまでは「いつか楽器が吹けなくなったらどうしたらいいか分からない」と思っていました。今は「それはそれで、楽しく暮らせるな」と思うようになりました。私にとって音楽活動は必須ではないです。「あれば楽しい」くらいの人種です。それでもいいじゃないか、と思うようになりました。

こんな私ですが来月から練習に復帰します。オケが楽しいし好きであることは変わりありません。心に響く音を目指して精進します。お手柔らかに、どうぞ宜しくお願いします。

また始まる。

Ob 桑野 若菜

2020 年 1 月第九演奏会の打ち上げの時。「なんかさー、コロナウイルスっていうのが、あるらしいよね!」という会話をしたのを鮮明に覚えている。その後、ウイルス流行の影響が鎌響に及ぶのは、本当にすぐだった。緊急事態宣言という事になって、練習も、本番も、全部中止。世の中も一変した。通勤電車はガラガラ状態。酔客がたむろしていた夜の横浜鶴屋町は、まるでゴーストタウンのよう。三密、ソーシャルディスタンス、ステイホーム・・・聞いたことのない言葉が溢れてくる。一体誰がこの状況になると予想したのだろうか。

鎌響の練習が無くなって、ぼっかりと予定があった休日。楽器を吹こうという風に気持ちを持ち上げる事は、何となく出来なかった。結局およそ 4 ヶ月間、楽器には触らなかった。

その年の夏、リモート第九収録へ参加する事になり、慌てて楽器を調整に出した。いつもは予約で一杯の楽器店だが、店も暇なのか、連絡をするとすぐに見てもらう事ができた。外出自粛中に飲酒量が増えた為か、体が大きくなってしまい、なんとか着られそうな舞台衣装を引っ張り出した。練習初日、久しぶりの芸術館はホールでの練習だった。大ホールに自分のチューニングの音が響いた瞬間、「あっ!」というひらめきのような感覚がした。『また合奏が、始まるんだ。』というような気持ちだろうか。お恥ずかしいというか申し訳ない話だが、わたしは今までチューニングの際、オーボエだからという何となくの理由で、やらされている様な義務感の中で A の音を出していた。でもこの日は、うまく言えないけれども、何か意味のある事のように思えた。その日以来、自分の中で意識が変わったかもしれない。それからはチューニングの音を出す度に「みんな、始まるよ。」と心の中でつぶやいている。これが正解なのかどうかは、わからないけれど。

鎌響のない生活

Va 高橋 良子

昨年度 3 か所の年金事務所、年金相談センターで年金相談業務をしていました(今年度は 2 か所に減りました)。年金業務はオンライン化が全く遅

れていて、お客様と対面で請求の手続きをして頂くしかありません。

マスク、フェイスシールド、アクリル板の重装備での業務です。アクリル板が届くまでは透明なゴミ袋を切り開いてぶら下げるといったみっともない光景でした。

感染者が出た事務所が閉鎖になったというニュースがかけめぐり、3か所で仕事をしている私が感染したらたいへんなことだと、絶対に感染するわけにはいかないと気を張って生活していました。

遺族年金の請求で死因が「新型コロナウイルス感染症」というケースを4件担当しました。最期に全く会えずに寂しい思いをしたというようなお話をずいぶん聞きました。

NEW FACES

◆ Fg ^{へいま}平馬 ^{あやこ}文子 さん

① ファゴット（高1から）。オーケストラ（高3から）。

② 好きな作曲家はハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス、メンデルスゾーン、マーラー。やりたい曲はオペラ（特にモーツァルト）、宗教音楽（レクイエム、オラトリオなど）。



③ 真面目に楽しく、頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

コロナ禍の前から薄々感じていたことですが、オケと室内楽の練習以外で楽器を開けることが少なくなっていました。夏に練習が再開されることになり、5か月ぶりに恐る恐る楽器ケースを開けました。湿気を吸い込んだペグ（糸巻）はビクともしません、福岡さんに SOS して直して頂きました。

普通に練習があれば参加して楽器を弾く、それは楽しいと思うから続けていたつもりでした。それが突然の「鎌響のない生活」です。インタビューで横島先生がおっしゃったように、いろいろのことが試されます。オケに行っても楽しく思わなくなったらやめると思いますが、幸い楽しいと思えます。練習に行くと、なぜ個人練習してこなかったのだらうと思うのですが、またすぐに次の練習になります。結論は急がないことにします。

- ① 音楽歴・楽器歴
- ② やりたい曲・好きな曲
- ③ 入団に際して一言

◆ Tp ^{なかむら}中村 ^{りょうへい}龍平 さん (26)

① Tp は小6くらいから。オーケストラは大学から。13年ほどピアノを習っていた時期もあります。Ob が向いてそうと言われることが稀にありますが、これまでリコーダー以外の木管楽器で音が出たことはほとんどありません。



② 9年以内にジュラシックパークのテーマを吹けるくらいのパワーをつけるのが今の目標

③ 次こそ練習が中断することなく演奏会を迎えられますように。奏者ルディスタンスも縮まりますように。楽しく頑張ります。

編集後記 ♪ 今回もバタバタしましたが、何とか発行にこぎつけることができました。LINE、ZOOM とコロナ禍の時期ならではのですね。♪ 横島先生、ファミコン委員の皆さん、有難うございます。♪ 永井さんにはご無理をお願いして寄稿して頂きました。感謝です。♪ コロナ禍特集ですが、眞知子さん、美緒さん有難うございました。本当はもっといろいろな方から頂きたかったです……。奇数ページになってしまう（編集しているの恐怖です！）ので、編集部員が書かせて頂きました。（高橋）

TUTTI 編集部 Va 高橋良子（編集長） Va 田ヶ原恭子 Ob 桑野若菜 Vn 関口杏奈